



# 重要文化財 櫛引遺跡出土品





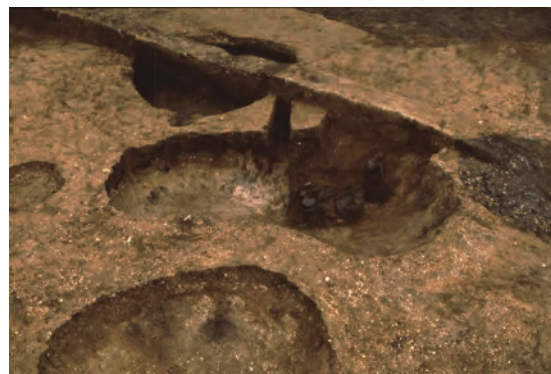
青森県櫛引遺跡出土品  
(写真上の深鉢形土器は第1号土坑の坑底付近から出土した)

縄文から江戸まで、様々な時代のものが発見されている櫛引遺跡は、青森県八戸市の西部、馬淵川右岸の段丘上に立地しています。平成9年に発見された、約11,000年前の縄文時代草創期後半に営まれたムラの跡は、日本国内でも数少ない事例として注目されました。

竪穴住居跡2棟、土坑6基、集礫1基からなり、各遺構の内外から土器と石器がみつかっています。中でも、深鉢形土器1点と土器片76点、石器6点（搔削器4・石鏃1・石核1）がまとまって出土した第1号竪穴住居跡と第1号土坑の遺物は、令和5年6月に重要文化財に指定されました。

これらを代表するのが、第1号土坑から出土した、草創期後半の多縄文系土器群に属する深鉢形土器です。細かな破片の状態で見つかったものの、全体の9割が残り、ほぼ完全な形に復元されました。緩く丸みを帯びた平らな底から、3回屈曲しながら立ち上がり、最上部にはごく小さな二つの突起が向き合うように飾られています。そして上半部には、二種類の縄を使った羽状の縄文が付けられています。

縄文時代草創期の遺物は、後の時期に比べて量も種類も少なく、全体の形が分かる土器も全国に数えるほどしかありません。この深鉢形土器は、全形をうかがい知ることができる稀少な事例であり、この個体を含む櫛引遺跡の出土品はまとまりのある貴重な資料として、その学術的価値が高く評価されています。



深鉢形土器がみつかった第1号土坑



みつかった草創期の出土品  
(柱状に土が残っている箇所)